研究テーマ：インフォーマルコミュニケーションを重視したセキュアな次世代仮想研究室に関する（1/2）

（プロジェクト番号　JGN2-A16009）

研究機関：　岩手県立大学、九州産業大学、九州大学、京都大学

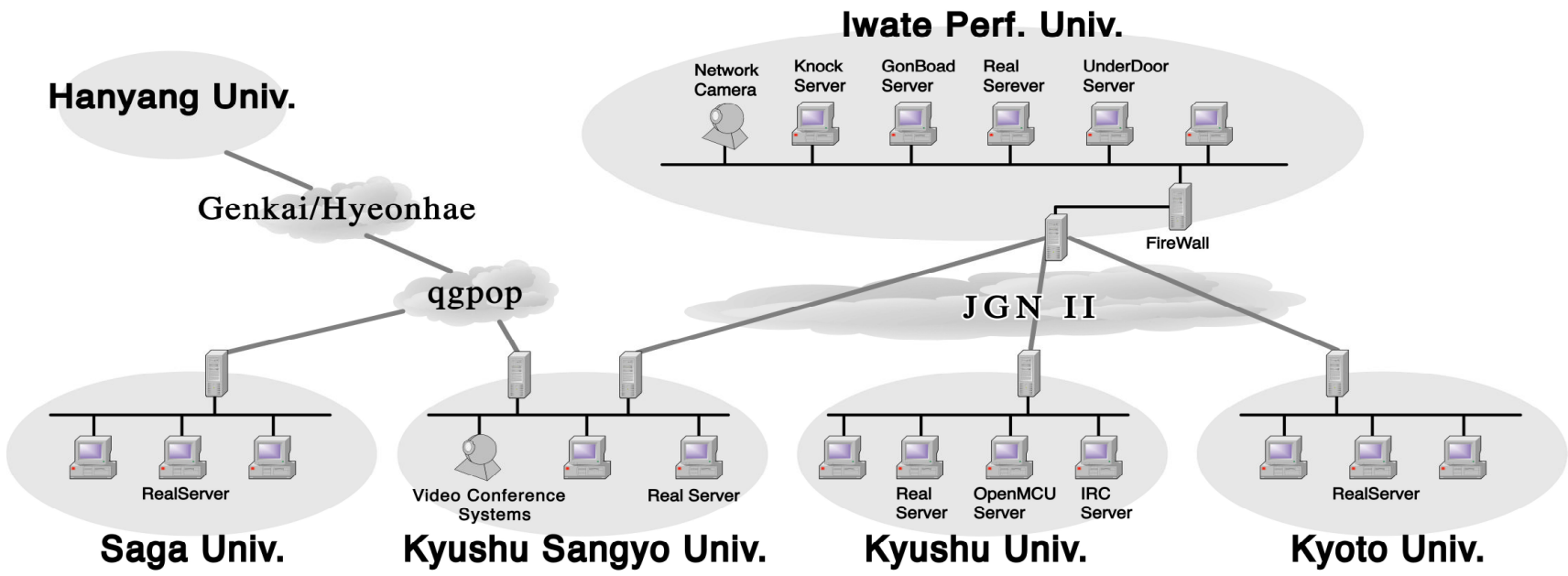
研究の概要：

本研究では，遠隔地の異なる組織の研究室間をネットワークで相互接続し，インフォーマルなコミュニケーションを重視した仮想研究室環境の構築を目指す．教育や研究実験を中心とした運用を通して，とくに安心・安全な仮想研究室環境に必要なセキュリティやネットワークの諸技術，協調支援やヒューマンインタフェース等の研究課題について探求する．

研究の目的：

本研究の目的として，インフォーマルなコミュニケーションを重視した仮想研究室環境を構築し，学生同士のコミュニケーションを促進させギガビットネットワーク上での人間関係の構築を重視する．このような人間同士のコミュニケーションが生まれた仮想研究室環境で，本研究で開発する様々なインフォーマルコミュニケーション支援システムやネットワーク技術の運用実験を行う．新たな試みとして例えば冠婚葬祭などの私的なイベントや地域性に特化した放送など，小規模かつインフォーマルなストリーミング実験がある．

実験機器構成：



卒業式のストリーミング実験

研究テーマ：インフォーマルコミュニケーションを重視したセキュアな次世代仮想研究室に関する(2/2)

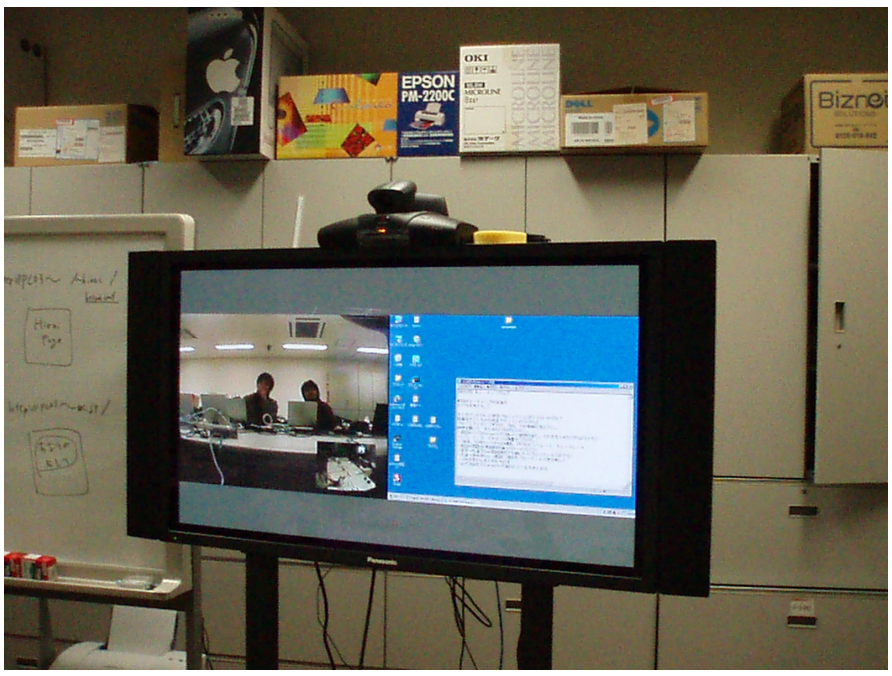
（プロジェクト番号　JGN2-A16009）

研究機関：　岩手県立大学、九州産業大学、九州大学、京都大学

研究開発成果：

岩手県立大学と共同研究大学である九州産業大学，京都大学とのJGNⅡで接続した．主に岩手県立大学と九州産業大学間で，DVTS(Digital Video Transport System)やPolycom社のViewstationによる多地点会議システム等を用いて，遠隔会議と動画像配信実験，それに伴うネットワーク実験を実施した．また，それらの技術を応用して，e-Partyの実験を試みた．e-Partyは，地理的に離れた複数の立食形式のパーティ会場をネットワークで接続し，一つの空間でパーティを行っているような臨場感を味わうことを目的とした研究である．また2004年3月に岩手県立大学で行われた卒業式では，式典参加者，特に学位記授与者の視線映像をインターネット放送により共有する実験を試みた．

DVTS の実験と遠隔会議の様子



プロジェクトのアピールポイント

従来のネットワーク通信で主として取り扱われてきたフォーマルなコミュニケーションとは異なる、インフォーマルなコミュニケーションに着目し技術開発を行った。遠隔地を結んだe-Party 実験では、インフォーマルコミュニケーションならではの問題点を明らかにすることが出来た。

プロジェクトの自己評価

当初計画のうち実現できなかった部分もあるが、実際のネットワークシステムを通して、インフォーマルコミュニケーションについて一定の知見を得ることが出来た点は評価できる。